

公開シンポジウム
「ビスホスホネート系薬剤に起因した顎骨骨髄炎・顎骨壊死の現状と対策」

○ **主 催**：日本学術会議歯学委員会病態系歯学分科会、日本口腔科学会

○ **後 援**：日本医歯薬アカデミー

○ **日 時**：平成 22 年 6 月 25 日（金）16:30-19:00

○ **場 所**：札幌プリンスホテル国際館パミール A会場
（札幌市中央区南 2 条西 11 丁目）

○ **開催趣旨**：

我が国が高齢社会を迎え、骨粗鬆症や悪性腫瘍の患者が増加している中で、ビスホスホネート系薬剤の使用は増加の一途をたどっています。ビスホスホネート系薬剤は、骨粗鬆症患者における骨折の予防、あるいはがん患者における骨転移の予防や疼痛の緩和に優れた臨床効果を示しますが、まれに顎骨に骨髄炎や壊死を生じることがあり、患者のQOLの面から大きな問題となっています。ビスホスホネート系薬剤と顎骨壊死に関しては、平成 20 年 4 月 22 日に日本学術会議歯学委員会病態系歯学分科会によりシンポジウムが開催され、内科的・整形外科的立場から我が国におけるビスホスホネート系薬剤の使用状況が、また歯科・口腔外科の立場から顎骨壊死の状況が報告され、今後の対応について議論されました。その後、歯科領域を中心に、骨壊死の発症や経過、発症頻度、病態、治療法と治療成績などに関する研究が進み、多くの事実が明らかになってきました。しかし、未だ真の発症メカニズムは明らかではなく、適切な診断法や最適な治療指針も示されていません。本シンポジウムにおいては、最新の知見を提供し、今後の研究の進め方、ならびに現時点で最適と考えられる診断法や治療法、さらには予防法について論議します。

○ **シンポジウム次第**：

○主催者側挨拶 戸塚靖則（北海道大学教授、日本学術会議会員、
第 64 回日本口腔科学会総会学術大会会長）

○趣旨と進行の説明

座長：戸塚靖則（北海道大学教授、日本学術会議会員）
高戸 毅（東京大学教授、日本学術会議会員）

○講演

形態学的側面
網塚憲生（北海道大学教授）

病理学的側面

山口 朗（東京医科歯科大学教授、日本学術会議連携会員）

画像診断学的側面

田口 明（松本歯科大学教授）

臨床病態学的側面

浦出雅裕（兵庫医科大学教授）

治療学的側面

松尾 朗（東京医科大学准教授）

山崎 裕（北海道大学講師）

永田俊彦（徳島大学教授）

○質疑と討論

○閉会の挨拶 高戸 毅（東京大学教授、日本学術会議会員）

<申し込み等について>

参加費無料、事前申込み不要です。

<本件に関するお問い合わせ先>

三國 T e l : 011-706-4283

M a i l : scjs625@den.hokudai.ac.jp